

# 心友会だより

第 4 2 2 号

昭和44年6月1日創刊  
平成22年9月8日発行  
発行所及責任者  
川崎市多摩区東生田4-13-17  
電話番号 044-976-0708  
郵便番号 214-0031  
宗兼発行人 出雲心友教会 佐藤武彦  
編集 奇数月8日1回発行  
1部150円 (送料共)  
年間購読料1,800円

## 心友会だよりに寄せて

昭和四十四年六月一日に  
会長先生の念願だった、こ  
の『心友会だより』の第一号  
が、山崎様のご協力により  
創刊されました。  
あれから、この第四二二



出雲大社の神楽殿

号まで、四十一年余りの月  
日が流れました。

私(佐藤)が、担当させて  
頂いた初めての第二二八号  
が、平成四年十一月でした  
から、それからでも十八年  
の時間が流れた訳です。

今でも、第二二八号が、  
ひどい内容で、申し訳なか  
ったと記憶しております。

しかし、皆様のご協力に  
よりまして、紙面も少しづ  
つ充実し、何とか形になっ  
た事を、本当に有難く思っ  
ております。

この『心友会だより』は真  
実の信仰に歩む人たちの集  
まりである『出雲心友教会』  
をより一層理解して頂く為  
に発行されてまいりまし  
た。

特に、地方の方々や、な  
かなかお会い出来ない方々  
の為の話し合いの場となり  
この紙面が、信者の皆様の  
体験談・御意見、あるいは  
御感想で、あふれる事を願

って、今日まで頑張ってま  
いりました。  
しかし、信者の皆様方も  
少しづつ、ご高齢になられ  
て、体験談などの原稿も、  
めっきり少なくなっていま  
いました。

そういう事もあり、残念  
ながら紙面の充実が、はか  
れない状況となつてしま  
いました。色々と考えました  
結果、しばらく充電期間を  
頂く事となりました。

何卒、ご理解の程よろし  
くお願い申し上げます。

皆様方は、立派な出雲の  
信仰につながり、日々おつ  
とめされておりますが、若  
い人たちは、信仰と  
となんだか不合理な、うさ  
ん臭いものとして避けよう  
という方々が、多数おりま  
す。

真理の信仰は、決して不  
合理なものでも、うさん臭  
いものでも、ましてや気安  
めにするものでもありませ  
ん。

それどころか、真理の信  
仰は私たちの生きていくこ  
との源泉となるものです。  
真理の信仰の真理とは、  
言うまでもなく「真」と「理」

のことです。

信仰は現世利益を得るた  
めのものではありません。  
ですから、現世利益を強調  
した御利益主義の信仰は、  
出発点からして間違ってい  
るわけです。

真理の信仰の出発点は、  
感謝にあります。それから  
悩みも、苦しみも、迷いも  
いつさいを自分がおすがり  
する神様に全託する、つ  
まりおまかせするところに  
救いがあるのです。感謝  
と全託は信仰の二本柱と  
いえます。

感謝と全託の結果と  
して、救いが得られる形  
こそ、「真理の信仰」という  
べきものでしょう。

最後になりましたが、こ  
の紙面を支えてきた皆様方  
に感謝申し上げますと共に、  
『心友会だより』は、休刊致  
しますが、これからも永久  
に続く皆様の出雲心友教会  
をよろしくお願い申し上げ  
ます。

心友会のURLは [www.shinyukai.or.jp](http://www.shinyukai.or.jp)  
[shinyukai.or.jp](http://shinyukai.or.jp) です。また、  
[h-ida@shinyukai.or.jp](mailto:h-ida@shinyukai.or.jp)  
ホームページ等へのご意見  
ご感想もお送り下さい。

## 八の日の月並祭に お詣り致しますよう

月並祭は、大神様の日頃  
の御加護に感謝する御祭で  
す。自分の損得を抜きにし  
て本当に感謝のお詣りをさ  
せて頂く良い機会です。

『家で自分の大国様にお  
祈りしているからいいで  
す』とか言い訳しないで、  
出来るだけ本殿にお詣り下  
さい。

八の日は月に三回ありま  
す。せめて一日ぐらいいは、  
自分自身で日を決めてお詣  
り下さいませ。

特に総代の方、支部長の  
方、初心に返って、あの頃  
の生き生きとした、燃える  
様な気持を思い出して、お  
詣り下さい。

また、その後、勉強会を  
させて頂き、大神様につ  
いてのお話を会長先生がして  
下さいます。その他、皆様  
方の体験談や質問などなご  
やかな雰囲気の中で、デイ  
スカッション形式で座談会  
をしておりますので、是非  
ご参加下さい。

皆様の真心のお詣りを、  
大神様は手を広げてお待  
ち下さっていますので…。

### 祖霊大祭

我々日本人は、はるか昔から、先祖を祀るといふことを非常に厳格に行なっている民族です。この事は、以前から何度も申し上げておりますが、それではどのくらい『昔』の話なのでしょうか？

日本において、この事はつきり形として現われているのは古墳時代といつてよいかもしれません。もちろん縄文時代の土偶を埋める行為も死者に対する愛情表現であり、愛する者を失った悲しみの表現でもあるでしょう。そして、死者の靈魂の存在を考えていたものとも思われます。

では、話を古墳時代にもどしますが、『古墳』とは一体何なのでしょう？

一般的には、当時の権力者が自分を誇示する為に作らせた墓だといふ事が言われています。他には巨大な古墳をつくることによつて、自分を一般の民衆から区別し、神聖化をはかったのだといふ説もあります。

いずれにしても、この頃

から一般の人々も死者を埋葬するという習慣が確立されたと思われれます。

民族学者の柳田国男氏によれば、神道では、死の直後の死者の靈を『死靈』と呼びます。この死靈は個性をもち、死穢をもっています。子孫がこの死靈を祀ることによつて、死靈はだんだん個性を失い、死穢がとれて浄化されて行きます。

一定の年月が過ぎて、完全に浄化された死靈は、『祖霊』となります。死靈の段階では山の低いところにいるのですが、これが昇華、浄化されて祖霊となるにしたがつて、山の高いところに昇って行くわけです。

そして、高山の上に昇るにつれて、死靈は少しずつ穢れや悲しみから超越して清い和やかな神(祖霊)になります。これが柳田邦男氏の『山上昇神説』です。

したがって、日本人の死後の世界観は、仏教のそれではなく、神道の考え方であると断言してよいと思われれます。

今でこそ、彼岸とかお盆とか先祖供養の祭事は、あ

たかも仏教の行事であるかのように粉飾され行なわれておりますが、元来は神道の祭事に他なりません。

日本人の心の中には、四季を通し、先祖の御靈を偲んで墓詣りをしたり、また御先祖様が家に帰ってくるという、残された子孫と先祖との一体感、先祖が守護

霊になって守って下さるのだという、常に自分の肉体の親に対する感謝は、魂の親である大神様を慕う信仰と同一に、脈々とひきつがれております。

古代より神道の宗教施設として神社が創建される様になってから、その後に神社は主として村落共同体の祭り、すなわち春の豊作を祈る祭り(祈念祭)、秋の収穫を感謝する祭り(新嘗祭)を行なう機関となり神主は、その機能を果たすだけで安閑としておりました。それに対して人生問題に対するすばらしい教学を持つていた仏教は五三八年(五五二年説もあり)伝来すると、日本の習慣や文化などにすばやく融合し、人の生死に対しても解答を与え

てくれました。

こうして、葬祭とその後の儀礼は、一切仏教と言つて良い程になってしまいましたが、もともとは総て神道で行なわれていました。

今年も秋季祖霊大祭が近づいてまいりました。

皇室におかれましても、秋季皇室祭が神道行事としてなされ、一般国民に先祖供養の大切な事を率先して範を垂れていらつしやいます。

古代から幽顕一体の神として大国主大神は、私たちの生死を司り、死後の靈魂の安定を計つて下さつていたので。

日本中には、八百萬の神々がいらつしやいます。その中で私達の死後の靈魂の安定まで面倒をみて下さるのは、幽世大神と云はれないのです。この事は、しつかりと心に思いとどめて頂きたいと思ひます。

私共でも秋季祖霊大祭を九月二十三日(木)に仕えさせて頂きますので、万障お繰り合わせの上、是非おま

### 心友会コーナー

●心友会だより布教キャンペーン  
心友会だよりを年間千八百円(一部につき)でおわけします。親戚の方や、知人の方にお渡しください。

(郵送先をお知らせ下さい。)

●会長先生のご著書でございます  
会長先生のご著書、「日本の心 神道入門」(再版)、「霊のめぐみ 霊のさわり」、「神霊の奇跡」、「神のこころ・霊のめぐみ」、全て、末広会にて販売しております。

在庫に限りがございますので、お早めにお求め下さい。

●不明な点等、ございましたら  
〇四四(九七六)〇七〇八

### 大自然の恵みを活かして住まう 省エネ 活性化住宅

#### 太陽で24時間床暖房 ハイブリッドソーラーハウス

奥様の冷え性、ご主人のストレスを解消、喘息やアトピー症状を緩和、お年寄りのヒートショックを防止、上下温度差のない大空間(全館床暖房)エネルギー削減など、人、水、土、空気、食品、他全ての物質に作用して、白蟻、ダニ、ゴキブリなどの害虫が来ない素晴らしい環境効果を生みます。

下記住所に当社モデルハウスが有りますので、是非見学、体験して下さい。

出雲心友会 横浜支部会員

My Hands 有限会社白幡工務店

〒221-0076 横浜市神奈川区白幡町6-10  
TEL045-401-0549 FAX045-401-2085  
E-mail:myhands@d3.dion.ne.jp  
代表取締役 金子文雄

### 末広会コーナー

●各種贈答品承ります。  
多少に拘らず、お気軽にご用命下さい。

●冠婚葬祭用カタログございます。  
自由にご覧いただけるカタログ。予算別には、贈答品在庫カタログ。是非ご利用下さいませ。

●詳しくはお電話にて。

●宮城県産、キヌヒカリを御奉納米として承っております。  
また、ご自宅用としても、名水の逸品のキヌヒカリをお召し上がりください。

●発送も致しております。

●多良間島産の黒糖販売開始  
さとうきびから作られた本物の黒糖です。

●是非、お求め下さい。  
●新製品続々登場  
※詳しくは、お店にて。

●他にも多数商品がございます。

発想をアクティベート。伝える情報を伝わる情報に。マルチカルチュラル時代のコミュニケーションサービスを展開しています。

株式会社 プレシーズ  
〒108-0072 東京都港区白金 1-25-20  
Tel : 03-3444-7111(代) Fax : 03-3442-5777  
E-mail : mails@preseez.co.jp  
Homepage : http://www.preseez.com

お問い合わせ、資料請求は、  
〇四四(九七六)二八八二まで

### 秋季例大祭

以前から何回となくお話

しておりますが、この大祭は正面の御扉が開き、大神様からの波長(霊波)を直接お受になれるチャンスの日でもあります。(他には春季例大祭と正月の三箇日に御扉が開きますが、一年に五日しかない貴重な日でもあります。)

私達の信仰している神様は、今更言うまでもなく神々の司であらせられます。

つまり、格式が一番高い神様なのです。

御扉が開くと言う事は、御神体(御神像)を拝見できると言う事でもある訳です。めったにないチャンスの日ですから、万障お繰り合わせの上、是非おまいり下さいませ。

大國主大神様は、私たちの真心にお答え下さる神様です。

そして感謝のおまいりを大変お喜びになられます。もちろん、そこに打算が あっては いけません。昔の人々は、朝起きて、

まず神棚に手を合わせ、そして仏壇に手を合わせました。

それは、まず神様に感謝し、そして御先祖様に感謝する気持ちからのごく自然な行為だからです。

ですから、食事の時も自然の恵みに感謝して、決して無駄にはしなかったのです。

もちろん物も大切にしました。

感謝する気持ち、そして祈る気持ちは、大自然に對しても、もちろん持つていました。

自然と共存し、決して逆らう事はなかったのです。

それはまるで日本昔話の世界だと思われる方もいらっしゃるでしょうが、本当にそうだったのです。

日本各地に残っている昔話や神話は、単なる「おとぎ話」ではないのです。

日常生活を通して気がついた事や自分自身も含めて人間に対する戒め、そして人々の思いが、ぎつしり詰まっています。

その最たる書物が、古事記であり、日本書紀なので

す。

戦後、六十年余りが経過して教育自体が見直される時期となりました。

凶悪犯罪の多発に伴う犯罪の若年化は、教育も一因となっている事は明らかです。

教育する立場の者が、真剣に考えなくては、大変な事になってしまいます。

学校教育、家庭教育の両方がいい加減では、現像を増長するだけです。

信仰が、有る無しにかかわらず、感謝する心を持たなければ、損得の計算だけで行動する、自分勝手な人間が増えるだけです。

つまり、何も考えないで行動した結果、常識からはずれた事件につながるのだと思います。

目に見える事に感謝出来ない人間に、目に見えない事に感謝しろと言っても絶対に無理な事です。

我々に出来る事は、感謝する気持ちを形に表わして子供達に見せ、段階を踏んで、教育して行く以外ありません。

昔の人は、「子供は親の背

中を見て育つ」と言いましたが、その通りだと思いません。

ですから朝のおまいりは「こうして生かされております事を心より感謝申し上げます。」と言う感謝、夜のおまいりは「今日一日を無事に過ごさせて頂きました有り難うございました。」

と言う感謝の気持ちを常に持たなければなりません。

それが大神様に対する畏敬の念、御先祖様に対する畏敬の念、すなわち先祖供養にもつながるのです。

身近な関係、例えば母親と息子との関係でも、お互いが感謝し合っているれば、「生んでくれて有難う。」

「生ませてもらって有難う。」という事にもなりましよう。

魂の親は、大神様ですが肉体の親は、両親(先祖)なのです。

本当に感謝する事はいくらでもあります。

秋季例大祭に参列される十月二十四日(日)も心から感謝し、大神様と波長を交流させて、氣力を充実させましょう。

ご商談、ご宴会、各種会合にご利用下さい。



**翁庵**

新宿区神楽坂 1-10  
TEL 03 (3260) 2715

日立チェーンストール  
ソニー製品取扱店

東京電力認定優秀電気工事店

**榊原電機株式会社**

中野区沼袋 1-2-12  
TEL 03-3387-6351(代)



油のこなら何でもご相談下さい。

食用油脂・食品・調味料  
石油製品・化学製品

**カナダ株式会社**

本社 東京都台東区浅草1丁目34番9号  
〒111 TEL.03-3861-1311(代)  
営業所 大阪、名古屋、仙台、福岡  
http://www.abura-ya.com/  
http://www.abura-ya.com/realshop/realshop.html

**人間ドック**

疾病の早期発見・早期治療から予防そして健康生活のアドバイスまで!!

1日ドック・1泊2日ドック

資料無料送呈

医療法人社団 **同友会**

理事長 高谷 雅史  
東京都文京区西片 1-15-10  
TEL.03-3816-5840

ボリューム満点 **“おいしいラーメンの店”**

ラーメン・ギョーザ・シューマイ・定食各種

**らーめんはうす**

川崎市多摩区登戸 3142 TEL044-911-8351

鳥と卵のご用命は当店へ



**宮川食鳥鶏卵株式会社**

東京都中央区築地 1-4-7  
電話 03 (3541) 0164・0177・0370  
FAX 03 (3541) 0164

### 神迎えと神在祭

出雲大社の神在祭は、今も陰暦によって行われ、十月十一日から十七日までの一週間(陰暦)がその期間となつていきます。(今年は十一月十六日から一週間)

ただし、その前日の夜に神迎えがあり、またそれに先立つ潔斎もあるので、神社としてはかなり長期にわたる緊張の連続です。

神々の会議の場所は本社でなく、本殿から一キロ余り西の、稲佐の浜にほど近い字仮の宮之、撰社上ノ宮となつていきます。

しかし、初めからここへ参集されるのではなく、いちおう本殿の両側にある、十九社へお入りになり、ここから昼間だけ上ノ宮へ行つて会議をされ、夜には十九社へ帰つてお休みになると伝えられています。

十九社は、本社を東西にそれぞれ十九社ずつあるのので、合計三十八社ということになります。このうち東十九社へは出雲大社より東の神々が泊まられ、西十九社へは西の神々が泊まら

れるとされています。

また、東十九社のうち、北から数えて三番目の社殿にはお産の神である塩竈さんが泊まられることから、この期間中、安産を祈願するものの参拝が多くなる様です。

陰暦十日の夜の神迎えは稲佐の浜の波打ちぎわに、八足を置き、神籬を二本立てて、教統司祭のもとに海に向つて招神を行なうのです。そして、神籬を絹垣で囲い、龍蛇神を先に立て、一同扈従して本社まで神幸します。到着したら神籬をもつて神霊を十九社にそれぞれ安置します。

こうして陰暦十一日から神在祭に入りますが、この期間中は、本社と十九社と上之宮とで、十一日には小祭、十五日には中祭、十七日には小祭と、それぞれ三度ずつ祭儀を行ないます。

本殿の献饌は小祭で五台、中祭で九台ですが、七日の小祭には、別に玄米飯二台を供えます。これは玄米を炊ぎ、円筒の型に入れて出すもので、それぞれ一升炊きです。上之宮へ

は、五合炊きを三台、十九社へはそれぞれ洗米と神饌を供えます。

十七日の夕刻になると、いよいよ神々のお立ちということで、神等去出祭と称する神送りの儀を行ないます。

本殿および八足門の扉を開き、階下の中央に案を置き、そこへ三升餅を七十六個の小餅にして供えます。どうして七十六個かという三十八社(東西の十九社)にそれぞれ二つずつという計算で、お土産として供えるのです。

こうして準備ができると祝詞をあげ、禰宜が「お立ち、お立ち」と二度連呼して、素手で楼門の扉を叩きます。

こうして神々はお帰りになるのです。また、この神在祭の期間中、社中では今も厳重な物忌をしますが、かつては付近の住民一般もそれなりに慎みの態度ですごしたそうです。

もともと、初冬、陰暦の十月、ここ出雲平野では西風が強く吹き荒れ、それが

毎日続くようになります。

これを「お忌荒れ」あるいは「神荒れ」と言い、その音を聞くと、「ああ今年もお忌さんになったか。」と地元の方々は、思われるそうです。

忌とは、いうまでもなく忌み憤むという事で、祭りに先立つ精進潔斎を言うものでした。そして、これには「籠り」ということが必須の要件となつていました。

一般に旧暦(陰暦)の十月を神無月といいますが、出雲では神在月といい、全国の神々がお集まりにならるので、忌み慎しまねばならないという思想が古くからありました。

それで、この期間のことを「お忌さん」といい、昔は一般の方々も普段とは違った生活態度をとっていた様です。

出雲大社をはじめ特定の神社においては、お集まりになる神々を迎えて行なう神在祭の伝統が一貫して守られており、前述の出雲大社などで、今日も御祭が行われているのです。

### 十五夜

花鳥風月とも雪月花ともいわれる様に、月は古来、日本人になくはならない美の対象だった様です。とりわけ旧暦八月十五日の満月はもつとも美しく、「月々に月見る月は多けれど、月見る月はこの月の」と歌われています。

これが中秋の名月、十五夜です。観月の風習は、平安朝以降のものですが、やがて月は観賞するだけのものから祈りも込めるものに変わっていくのです。

その昔、暦の基準は月にあります。人々は月の満ち欠けによつて月日を知り、農耕を営みました。八月は丁度里芋が穫れる時期だったから、農穫を象徴する満月の日は里芋の収穫儀礼が行われています。

稲作が主体となるまで、日本人の主食は里芋だったので、十五夜は大切な作物の予祝でした。

月はウサギがお餅をつく所で、かぐや姫が帰って行

く所だと信じていた子供の頃がなつかしいですが、未だ月は、大いなる力を持つた神秘的な存在です。月の神様にお供えをし、十五夜の月を見る事は、大変縁起の良い事なのです。

### お知らせ

☆この度、職員の佐藤武彦君が、一身上の都合により退職致しましたので、ご報告申し上げます。



☆永い間、心友会だよりをご愛読頂きまして、誠に有難うございました。また、お会い出来る日を楽しみにしています。

(編集部)

**正一位中子稲荷 いなり茶屋**  
 ~法事会席3,500円より承っております~  
 水曜日定休  
 営業時間 午前11時~午後3時  
 午後6時~午後10時  
 群馬県北群馬郡伊香保町509-3  
 天田 信良・典子  
**TEL.0279-72-4465**

### 社務所からのお願い

まだまだ暑い日が続きます。

皆様方から毎年頂いておられます年会費及び管理料が未納の方がおりましたら、お参りの際、社務所までお申し出下さい。

また、郵便局への振込もご利用下さいませ。

○年会費 (月間五百円)

年間六千円

○祖霊社祖霊壇の管理料

年間五千円

○出雲祖霊廟の管理料

年間五千円

口座番号は、左記の通り

〇〇二九〇一七一一三三二

\*お手数ですが、通信欄に年会費・管理料の区別を名記して下さい。

### 大祭の奉賛金と御初穂料について

秋季例大祭まで、一カ月半となりました。

大祭の度毎に、信者の皆様方にご協力して頂いておりますものに奉賛金があります。この奉賛金は、大祭を執り行なう為に必要な諸経費を賄う運営資金として

役立させて頂いておりますので、よろしくご了承下さいませ。(大祭の準備費用とお考え下さい。)

また、大祭の当日(代参の方は前日まで)に御神前にお供えする感謝のしるしとしての御初穂料があります。この御初穂は、日頃から大神様に御守護して頂いている感謝の気持ちを形に表わす意味のものです。(直接、御神前にお供えします。)

古い会員の方々には今更改めて申し上げる迄もない事ですが、誠に失礼とは存じましたが、新しい会員の方々より質問がありましたので、この際(当初ご奉賛を

お願いしてより三十年以上経過しております、新しい信者さん方には、その目的とか意義の違いがわかりにならない方も多分おられるのではないかと思いますので)その趣旨の違いを改めてご説明させて頂きました様な次第でございます。

何卒右、ご理解の上、ご協賛賜ります様、今後共よろしくお願い致します。

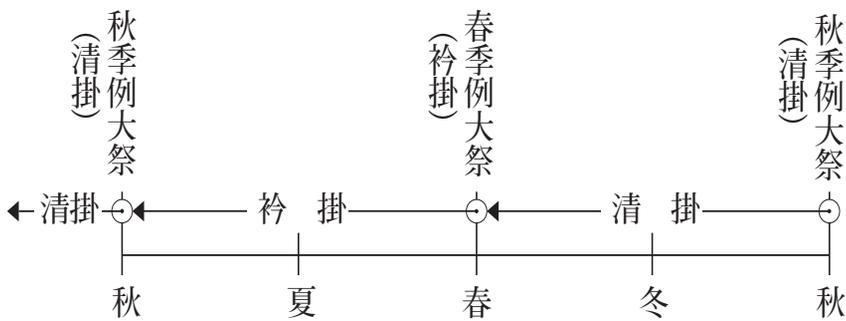
### 清掛と衾掛について

清掛と衾掛の着用の時期について、まだはつきりおわかりにならない方がいらつしやいますので、確認させて頂きます。

詳細は、左記の通りです。

☆秋季例大祭当日より翌年の春季例大祭の前日まで清掛の着用(冬季)

☆春季例大祭当日より同年の秋季例大祭の前日まで衾掛の着用(夏季)



#### ④ おし沼始発→

向丘遊園駅東口(小田急線南口)行

#### ① 向丘遊園駅東口(小田急線南口)発→おし沼經由溝口駅南口行

#### ③ おし沼始発→溝口駅南口行

発車時刻予定表			
行先	平日	土曜	休日
6	58		6
7	29 50	08 40	09 40
8	13 33 57	10 45	09 45
9	58	12 47	12 47
10	58		10
11		15	13
12	07	19	18
13	07	23	23
14	14 41	05	07
15	15 42	10 43	10 43
16	14 45	18 50	19 49
17	18 54	25	26 59
18	24	01 38	35
19	01 32	09 51	04 48
20	06 32	50	50
21	04		21

備考: 無印は、生田緑地入口・おし沼經由 溝口駅南口行  
 八印は、生田緑地入口・おし沼經由 原ヶ谷止まり(溝口駅南口へは参りませんので、ご注意下さい。)  
 □囲み時刻は、ノンステップバス

発車時刻予定表			
行先	平日	土曜	休日
6			6
7	04 35 56	14 46	15 46
8	19 39	16 51	15 51
9	01	18 53	18 53
10	04		
11	04	20	19
12	13	25	24
13	13	29	29
14	20 47	11	13
15	21 48	16 49	16 49
16	20 51	24 56	25 55
17	24	31	32
18	00 30	07 44	05 41
19	06 38	15 57	10 54
20	12 38	56	56
21	10		

備考: 無印は、溝口駅南口行  
 八印は、原ヶ谷止まり(溝口駅南口へは参りませんので、ご注意下さい。)  
 □囲み時刻は、ノンステップバス

発車時刻予定表			
行先	平日	土曜	休日
6	46	54	55
7	12 38 54	28 56	27 56
8	20 43	30	26 54
9	23 45	00 34	33
10	45	59	59
11	46		
12	54	02	03
13	54	11 52	08 52
14		56	58
15	01 27	31	31
16	01 27	02 35	03 33
17	03 35	10 44	09 41
18	07 44	18 50	18 49
19	14 49	31 55	31 55
20	19 53	36	37
21			

備考: □囲み時刻は、ノンステップバス

#### ② おし沼始発→溝口駅南口行

発車時刻予定表			
行先	平日	土曜	休日
6	31 56	30 50	39
7	12 22 30 46 50 59	04 23 37 47 57	13 52
8	07 14 25 43	06 22 40 57	36
9	21	23	08
10	09 48	13	31
11	14 46	13 23 47	37
12	17 39	49	37
13	18 44	48	31
14	18 40	20 44	21
15	09 46	47	26
16	23	22 46	23
17	08 36	06 16 38	19
18	09 26	15 42	14
19	03 20 51	19 49	14 50
20	17 46	48	26
21	18	21	19

備考: □囲み時刻は、ノンステップバス

※お問い合わせ 川崎交通局 044 - 977 - 5222



九月～十二月の行事予定

九月

秋季祖霊大祭 二時  
（※御伺いは午前中のみ受付です。）  
懇親会 三時半

十月

四日(月) みたま祭  
五日(火) 年祭  
十日(日) 総代会  
十日(日) 秋季例大祭  
二十四日(日) 閉扉祭

十一月

四日(木) みたま祭  
五日(金) 七五三詣  
十三日(土) 神迎祭  
十六日(火) 年祭  
二十一日(日) 総代会

十二月

四日(土) みたま祭  
五日(日) 年祭  
十二日(日) 総代会  
十八日(土) 合同慰霊祭  
二十日(日) 餅つき  
二十六日(日) 大祓祭  
三十日(木) おたきあげ  
三十一日(金) 除夜祭

九月二十三日(木)

秋季祖霊大祭

二時  
毎年、春と秋に各一回、祖霊大祭を仕えさせて頂いております。

各家の御先祖様(両家)の名字を祭文に入れて奏上し、御霊璽(神徒の方は、すでにみたまが入っている御霊代)にみたまをおさげ致します。

つまり、この御霊璽は、御先祖の霊がさがっている大切なもの(仏教の位牌)です。

十月十日(日)・十一月二十一日(日) 十二月十二日(日)

年祭(感謝祭)

正午  
その月に祀られた方々が、それまでの一年間、大神様に御加護して頂いた事に対して感謝申し上げる御祭です。

月並祭と同様、この年祭も自分の御利益ではなく、純粹に感謝の気持ちをお大神様に御奉告申し上げる機会でもあります。

十月二十四日(日)

秋季例大祭

正午  
春と秋の年二回行われる最も大きな御祭です。

ハガキでの申込となりま

すので、出席を希望される方のみ(代参含む)九月十五日までに必ず到着する様、ご投函下さい。(欠席の方は不要です。)

尚、当日の御伺いは、午前十一時までの受付となりますのでご注意ください。

三時半頃より懇親会がございます。

参加御希望の方は、ハガキの懇親会の出席に○印をして下さい。

ハガキでご案内させて頂

電話を下さいませ。

また、祀られた月に都合がつかず、今月出席を希望される方も同様に直会(昼食)の都合がございますので、人数をご連絡下さいませ。直会までが御祭です。

尚、御神体(大國様)と衾掛をお忘れなくお持ち下さい。(十一月からは清掛)

正面の御扉が開き、大神

様からの波長を直接お受けになれますので、万障お繰り合わせの上、是非おまいり下さい。

十月二十四日(日)

閉扉祭

午後三時

例大祭で開扉した御扉を感謝の念を込めてお閉めする御祭です。

この閉扉祭をもって秋季例大祭が無事終了ということになります。

是非ご参列下さいませ。

大祓祭

二時

日常生活の中で、私たち人間は知らず知らずのうちに、言葉によって人を傷つけているものです。

そうした言葉などの罪や穢れを、自分の言葉(自分の発した言葉)によって浄化し、更には自分自身を切麻により祓い清めます。

封書をお送り致しますので代参の方のみ御初穂を振込の上、人形を二十日までにお送り下さい。(必着)

尚、祝詞本をお忘れなくお持ち下さい。

また当日の午前九時より有志による『餅つき』がございますので、是非ご参加下さいませ。



十二月十八日(土)

合同慰霊祭

二時

信者さんで亡くなられた方々を年一回、合同で御供養させて頂く霊祭です。

一時からの月並祭が終わる次第、祖霊社にて仕えさせて頂きまますので、御遺族の方々はもちろん、有志の方々も是非ご参列下さいませ。

尚、当日も御伺いをさせて頂きまます、受付は午前十一時厳守と致しますので御了承下さい。

また、合同慰霊祭の後、御遺族の方々による直会がございます。

神迎祭

十一月十五日(月)～十六日(火)

旧暦の十月十日(今年は十一月十五日)の夜、出雲の稲佐の浜に於て、厳肅に執り行われる御祭です。

参拝ご希望の方はお早めに社務所までお申し込み下さいませ。

尚、代参(お一人様三千円以上)もお受け致しますので、参拝出来ない方は、是非お申し込み下さいませ。

十月四日(月)・五日(火)

十一月四日(木)・五日(金)  
十二月四日(土)・五日(日)

みたま祭(祖霊社)

十時・十一時・一時半・二時半・三時半にお仕えさせて頂きまます。

各月(その月)に命日を迎えられる方々の御供養をさせて頂きまますので、日程をご確認の上、お早めにお申し込み下さい。

また、お申し込みの方が多数いらっしゃいますので別の月の方や三柱(三人)以上の御供養を希望される方は、日程を別におとり致しますので、社務所までお申し込み下さいませ。

喪葬

☆六月三十日に東京都世田谷区にお住まいの柳通真知子様のお母様黒川毬子様が八十九才で帰幽されました。

柳通(黒川)家のご遺族の方々には慎んでお悔やみを申し上げると共に、みたま様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。